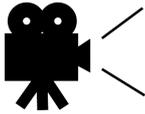


CityLights

2011年
会報 冬

No.29

目の不自由な方々と共に映画鑑賞を楽しむことのできる環境づくりをしています。



ごあいさつ

シティ・ライツ代表 平塚千穂子

会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。

この会報29号で、会報発行も7年目へ突入。そして4月には、団体設立10周年を迎えます。月日経つのは早いもので、はじめは1年に2本ぐらいしか作れなかった音声ガイドの台本も、今では年間20本以上も作れるようになり、バリアフリー上映会や映画祭もたくさん開催されるようになりました。また、月1回の開催が精一杯だったシアター同行鑑賞会も、ライブ音声ガイドに果敢に取り組むボランティアの皆様のおかげで、月平均4回は行われています。それに、当初は考えられなかったのですが、「ノルウェイの森」「武士の家計簿」「Space battle ship ヤマト」「ロビンフット」など、映画会社が提供するバリアフリー上映の機会も随分と多くなりましたね。また昨年は、映画だけでなくプロレス観戦やプラネタリウムまで、音声ガイド付きで楽しむことができました。

これも、一重に会員の皆様と、ボランティアの皆様のご支援のおかげです。この場をもちまして、改めて御礼申し上げたいと思います。ありがとうございます。

また、この会報冬号では、毎年、調布映画祭のお知らせをしていますが、この調布映画祭も、今年で9年目。これまで様々な映画に音声ガイドをつけてきました。

2002年の「風と共に去りぬ」「男はつらいよ一知床慕情」のバリアフリー上映から、

2003年の「釣りバカ日誌2」「山の郵便配達」「アイ・アム・サム」

2004年の「壬生義士伝」「ショコラ」「ウォーターボーイズ」

2005年の「助太刀屋助六」「SABU～さぶ～」「シカゴ」

2006年の「アラビアのロレンス」「隠し剣 鬼の爪」「コーラス」

2007年の「東京物語」「ホテル・ルワンダ」「フランダースの犬」

2008年の「蝉しぐれ」「河童のクウと夏休み」「フラガール」

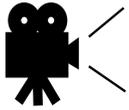
2009年の「時をかける少女(アニメ版)」「ゆれる」「ミリキタニの猫」

2010年の「静かなる決闘」「グラン・トリノ」「トウキョウソナタ」まで。

振り返ってみると、最初の「風と共に去りぬ」は、音声ガイド作りも収録も、凄く大変だったなあ～とか、あの頃はまだまだみんな若かったなあ～とか、いろいろなことを思い出します。主催者の調布市文化・コミュニティ振興財団とも、最初は喧嘩しながら(笑)でしたが、よくぞここまで続けてくださった！と思います。

ひっぱりましたが、今年の調布映画祭2011の音声ガイド付き上映作品を発表します。「オーケストラ!」「沈まぬ太陽」「マルタのやさしい刺繍」の3本に決定しました。「マルタのやさしい刺繍」は一昨年シティ・ライツ映画祭で上映した作品ですが、元気の出るステキな作品なので、この機にもう一度、音声ガイドをつけることにしました。「オーケストラ!」は、笑って泣ける最新のフランス映画。昨年末から音声ガイド勉強会の経験者をグループ分けして、在宅制作していただいています。また「沈まぬ太陽」は、テレビドラマの解説でもおなじみのハカラメさんによる渾身の一作です。どの作品も、感動必至の名作ですので、是非、観に来て下さい。

今年も映画と人とのステキな出会いがありますよう、皆様の人生に喜びと希望がおとずれますよう、私たちもいっそう活動に励んで参りたいと思います。本年も、どうぞご支援、よろしく願いいたします。



活動報告

～同行鑑賞作品

このコーナーでは、近日(10～12月まで)に開催された音声ガイド付き上映会や、同行鑑賞会をレポートします。参加された皆さん、企画者そしてボランティアの方々お疲れ様でした。

- ・悪人 10月09日 (ユナイテッドシネマとしまえん)
- ・大奥 10月16日(丸の内ピカデリー)
- ・ミッド・アクト2010 11月13日:(慶応義塾大学日吉キャンパス)
- ・演劇結社ぱっかりぱっかり「アフターエルフ」観劇会 11月14日 (アーツスペースプロット)
- ・冬の小鳥 11月22日(岩波ホール)
- ・さらば愛しの大統領 11月28日 ユナイテッドシネマとしまえん
- ・音声ガイド付きプロレス大会再び!猪木ボンバイエ2010 12月03日 (両国国技館)
- ・ノルウェイの森 12月18日 (TOHOシネマズ西新井)
- ・武士の家計簿 12月25日 (丸の内ピカデリー)
- ・人生万歳 12月26日 (恵比寿ガーデンシネマ)



シティ・ライツ設立 10周年記念 第4回映画祭情報 実行委員長からのご挨拶

夏号に続いて第4回シティ・ライツ映画祭関連の記事を載せます。今回は、実行委員長・ノンちゃんよりメッセージを頂きました。

いよいよ2011年。今年の4月には、なんとシティ・ライツ設立10周年という節目を迎えることとなりました。10年一昔と言ったのはそれこそ昔のことで、変化の激しい現代にあっては、5年でも一昔と感じてしまうくらい。そんな中で10年続けて来られたのもたくさんの映画を愛する皆さんのお陰です。第4回シティ・ライツ映画祭はそんな皆さんへの感謝の気持ちをたっぷりと込めながら、大切な思い出の詰まった10年間を振り返り、これからの10年に向けて、思いを新たなもののできるようなイベントに、して行きたいと考えています。

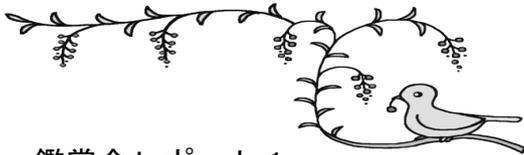
その日程と場所がようやく決定しました!6月4日(土)、もうすっかりおなじみとなった両国の江戸東京博物館大ホールにて、開催します。少し先のお話のようですが、年があげましたので、鬼が笑うことはないでしょう。今からスケジュールに入れておいてください。今までの映画祭にも増して、たくさんの会員の皆さんにご参加いただけると嬉しく思います。ということで、皆さんの心に印象付けをするために?今回の日程決定までの裏話を少々書かせていただきます。

6月4日というなんとも中途半端にも思える日程を見て、ちょっと意外に思われた方もいらっしゃるでしょう。そうです。シティ・ライツ映画祭は2回目、3回目とゴールデンウィークに開催してきました。これは連休中であれば地方にお住まいの方々でも観光を兼ねてご参加していただけるのではないかと…との思いもあつてのことでした。とは言ってもホールの使用は抽選での取りっことなり、残念ながら今回はあえなく敗退。そこで急遽、江戸東京博物館以外の場所はないものかと皆で探しまくり、金額的にもなんとかなるかもしれない場所をようやく発見。新しい場所での開催にはやや不安もあるものの逆に楽しみもあるかもしれないと思い、そちらに決めかけたのですが…。最終的に現地を見に行ってみると想像していたより上映環境が悪いことが判明し、またしても振り出しに戻ってしまいました。実はこの時点で、5月半ばの日程で江戸東京博物館は仮押さえてあったのですが、この日程には難点があったのです。皆さんご存知のように両国はお相撲の本拠地。ゴールデンウィークが終わると、すぐに場所が始まり、その期間、夕方の駅周辺の混雑はかなりのものとなるそうです。これは私たちにとってはなかなか大きな問題ともなりかねません。…と紆余曲折あつて再

度6月分の抽選に参加し、射止めることができたのが6月4日だったというわけなのです。

このだらだらとしたご説明で少しは印象付けていただけただけでしょうか？(笑)

次号では上映作品についてなど、内容についてのお話をお届けしたいと思っていますので楽しみに。あっ、その前に。皆さんにはいつものように字幕朗読やガイドづくりでご協力をお願いするほか、10周年記念のイベントのアイデアを出していただくなどのお願いにもあがると思いますので、そのときはどうぞ宜しくお願いいたします。



鑑賞会レポート 1

だれでも楽しい映画会

(大坪 朋子)



去る12月11日、今年も立教大学でバリアフリー映画会「だれでも楽しい映画会」が行われました。

ガイド製作者2名よりメッセージをいただきました。

私と音声ガイドとの出会いは、偶然でした。インビクタス勉強会に参加するまでの私は、一度も視覚障がい者の方とお話をした事もなければ、音声ガイド付きの映画を見た事ありません。ただ、以前、母の友人から「一緒に音訳ボランティアをやってみないか」と誘われた時に断ってしまい、区の広報誌などに「音訳」「視覚障がい」等の文字を見つけるたびに、この事を思い出しては気になっていたのです。

9月のある日、何か習い事でも始めようかしら・・・とカルチャーセンターのパンフレットをめくっていると「バリアフリー映画をつくらう」の文字が目が留まりました。最近映画館から足が遠のいていたけれど、結婚前は、ハリウッド映画はもちろん中国映画やインド映画まで見に行くほどの映画好きだった私、映画に関するカテゴリーなら面白いに違いない！とすっかりやる気になりました。カルチャーセンターの講座は日程が合わず、ネットでも色々検索してみると、シティ・ライツでちょうど、インビクタス勉強会の参加者を募集中でした・・・と、これが音声ガイドとの出会いです。

勉強会の初日は説明会でした。参加者からは矢継ぎ早の質問、それにテキパキと答える平塚リーダー、聞き取るのが精一杯の私。軽い気持ちで参加してしまったけれど、ちょっと場違いだったかしら・・・と不安になり始めた頃、実際に映像なしで映画を聞いてみる事になりました。雨の音、車が走る音、「〇〇が死んだ、もうダメだ」のセリフを聞いて私が想像した場面は、「雨の夜に誰かが交通事故にあって、瀕死の状態で救急車を待っている」というもの。その後ガイド付きで聞いてみると、これは「西の魔女が死んだ」の冒頭シーンで、全く違う場面だとわかります。音声ガイドの面白さに気付き、俄然やる気が出てきました。

渡されたインビクタスのDVDを一度通して観て、図書館で原作を借り、ウィキペディアで南アフリカやラグビーについて調べ、自分が担当するガイドを作り始めました。この場所は会議室？執務室？時間は昼？夜？この人はメイド？秘書？この表情はどう言えばいい？いざ言葉にしようとするとうまくわからない・・・。10分程の場面を何度も巻き戻して見ると、今度は、細かい事が全て重要な演出に思えてきます。あのSP、普段は革ジャンなのにここではスーツだ、あ、大統領の車がさっきと違う車種になってる、この美しい景色はぜひ伝えたい、等々。何が必要な情報なのか混乱しつつ、なんとか第一稿を完成させ、勉強会で発表すると、「ここは音でわかるからカット」「それは主観的な解釈が入り過ぎてる」「場面展開がよくわからない」と次々と率直な意見が飛んできます。「じゃあ皆の意見を取り入れて、後は宿題ね」と、こんな感じでテンポよく勉強会は進んでいきます。

皆であれこれ言いながら、繰り返し映画を見ていると、一人では気づかなかった事を色々発見出来ます。映画好きだったはずなのに、こんなにじっくり映画を観た事はありませんでした。勉強会に参加しなかったら、インビクタスの面白さを半分も味わえずにいたかもしれません。映画って本当に面白いなあと再発見！

偶然の出会いから参加した勉強会でしたが、その後音声ガイド付き上映も何度か鑑賞し、イギリスで公開されるハリウッド映画には全て音声ガイドがついていると聞けば、イギリスに出来る事が、なんで日本で出来ないのさ(怒)と、つい4カ月前迄は考えもしなかった事を口にするまでに成長しました。

私の人生に新しい気付きをくれた音声ガイド勉強会よ、本当にありがとう。引き続き「オーケストラ！」の制作に参加しています。これからもよろしくお願いします。

「インビクタス勉強会」に参加して。

(太田 亜希子)

今回始めてシティ・ライツの勉強会に参加させていただきました。きっかけは、もう何年も前のことになりますが、ニュースで「視覚障がい者の方と一緒に映画館に行き、見えない情報をガイドするボランティアが設立された」という話題を耳にしたのです。当時、私は地方のラジオ局でレポーターの仕事をはじめたばかりで、たった3分のレポートでさえ、目の前で行われていることを上手く表現することが出来ず、言葉だけで情景を伝える難しさを身に染みて実感していました。そんな時に飛び込んできた、このニュース。2時間の映画ならば、その間に出てくる景色や人の動作は計り知れません。しかも映画ですから、凝った演出もあるはず。ものすごいことにチャレンジする団体が存在するものだ、という衝撃と共に、いつか私も一緒に音声ガイドのボランティアに携わってみたいな、という気持ちが芽生えました。そして月日は流れ、勉強会に参加するチャンスが訪れました。(創設の年などから考えると、私が始めに耳にしたニュースはシティ・ライツのことだったのかもしれない…。)念願の勉強会、参加しての一番の感想は「難しかった、けれど楽しかった」です。原作本に英語の台本、さらにはラグビーのルールブックまで。メンバーの皆さんが持ちよった資料を参考にガイド作りが進められるわけですが、ラグビーの試合のシーンは本当に難しかったです。私は準々決勝のシーンを担当したのですが、メンバーの皆さんに助けていただき実況中継さながらのガイドに。「モール」に「ラック」。おかげでラグビーのルールや用語も覚えることができました。また、アパルトヘイトによる人種差別についても、学校での授業よりも興味深く学ぶことができたりと、音声ガイドを作ることが目的でしたが、それ以外にたくさんの知識と興味の幅が広がりました。モニターさんの意見も大変貴重で、有り難く聞かせていただきましたし、休憩中は余談雑談、人生論などなど、とても楽しい時間を過ごさせていただきました。良いメンバーに恵まれた中、勉強会に参加させていただき、本当にありがとうございました。

『インビクタス—負けざる者たち—』

監督:クリント・イーストウッド、出演:モーガン・フリーマン、マット・デイモン

[あらすじ] 長年白人支配のアパルトヘイトが続いていた南アフリカ共和国の1994年、反体制活動家として27年間投獄されていたネルソン・マンデラが、初の黒人大統領になり、黒人と白人共に新しい国を作る歩みを始めた。同国のラグビーチームは白人社会の象徴であり、国民には不人気の弱小チームだった。マンデラはこのチームが、南アフリカの白人と黒人の和解と団結の象徴になると考えた。1995年新生南アフリカで開催されたラグビーワールドカップ大会で、奇跡は起こった…。



鑑賞会レポート2

音声ガイド付きプロレス大会再び！猪木ボンバイエ2010

9月末に史上初の音声ガイド付プロレス大会が行われました。1度会報で触れておこうと思ったのですが、夏号には間に合わなかったのが、第2回を報告いたします。ガイドを担当した大輔さんよりメッセージをいただきました。

初めましての方は初めまして、DDブラザーズの弟、こと大輔です。

史上初となる音声ガイド付きプロレス観戦のガイドを、檀 鼓太郎さんとともに勤めました。

よく考えたら檀さんの名字のDと、大輔の名前のDでDDブラザーズって変よね(まあ、面白いから良し！)。

人呼んで“実況音声ガイド”は本当に実況です。それも下調べや準備を全くせず、今まで培った二人の音声ガイド知識とプロレス愛、そしてほんのちょびっとのベシヤリ能力だけを頼りに毎回綱渡りでやっています。

当初は一試合ずつ担当を決めて順番に行うつもりでいたのですが、その日に顔を合わせた瞬間に“全員でマイクを持って一斉にガイドしよう”と、どちらともなく言い出しました。主な理由は、1対1の試合はまだしも、2対2、3対3のタッグマッチには、一人では対応できないだろうと踏んだからなのですが、これが想像以上に効果があったようです。ここに“猪木さんのマブダチ”奥谷さんや、“北朝

鮮まで猪木さんを見に行った男”もっかいさんの深い裏話が加わり、大会は大盛り上がりで幕を閉じられました。

この実況音声ガイドは、初めてプロレスを見る晴眼者にも”判りやすい”と好評で、たまたまラジオをお貸しした近くの席の奥様方も大爆笑でした。(いいのか？格闘技で大爆笑は)

元々、檀さんも僕もシティ・ライツに関わるきっかけは「視覚に障害のある方々にプロレスを楽しんでもらうのは可能か」という話からだったので、長年の念願が叶った形になりました。これからも要請があれば続けていくつもりですので、もし機会がありましたら是非プロレスを体感し、大いに大爆笑しに来て下さい(だから、いいのか？大爆笑は)。



特集

映画祭をめぐる～トロント国際映画祭を知ろう

第6回目です。今回はトロント国際映画祭を取り上げたいと思います

<概要>(ウィキペディアより)

1976年に“The Festival of Festivals”として開催されたのが始まり。これは、世界中の映画祭で上映された優れた作品を集めて上映するというものであった。その後、多くの出資者やオーガナイザーの助力により、世界最大の映画市場である北米にとって欠かせない映画祭に成長した。

例年300以上の作品が上映され、ベルリン国際映画祭、カンヌ国際映画祭に次ぐ規模の来場者数321,000人を集める、北米最大の映画祭である。また、オスカー・レースの始まりとなる重要な映画祭となっている。

同じく北米最大規模の映画祭であるモントリオール世界映画祭(8月下旬から9月頭)と開催時期がほぼ重なり、競合状態となっている。ただしモントリオールはフランス語圏であるためフランス映画の出品が多く、ハリウッド映画の出品は少ない。

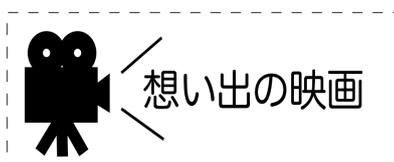
ファミリー向け映画に関しては別枠が設けられており、毎年4月に「sprokettz青少年トロント国際映画祭」として、ファミリー映画に特化したスペシャライズド映画祭を別途開催している。

ノン・コンペティションであるため、観客賞が最高賞である。日本の作品では2003年に北野武監督『座頭市』が受賞している。

<補足> 文中に登場した、モントリオール世界映画祭についても、載せておきます。

「モントリオール世界映画祭」

モントリオール世界映画祭は、毎年8月下旬から9月初頭にかけてカナダのモントリオールで開かれる国際映画製作者連盟公認の国際映画祭。1977年から開催されており、トロント国際映画祭と並び北米最大規模の映画祭である。8月末から9月初旬に行われるヴェネツィア国際映画祭、9月に開催されるトロント国際映画祭と開催時期が重なるようになり、ワールドワイドな求心力を失いつつある。しかし、それらの映画祭を上回る例年350以上の作品が上映され、来場者数はトロントに及ばないものの、ヴェネツィアを凌ぐ規模を維持している。



— 思い出は、名画とともにいつまでも —

このコーナーでは“思い出の映画”にまつわる投稿エッセイをご紹介します。皆さんの汗と涙の人生をセピア色に彩る素敵な名画の数々をエピソードとともにお寄せ下さい！！

「ジャニーズ事務所から吉本興業へ」

(池袋チーム所属・ハカラム)

2010年。翌年に地上デジタル全面移行を控えたこの年に、私は憧れの対象をジャニーズ事務所から吉本興業へ大胆に移行しました。そのきっかけともなった「さらば愛しの大統領」をわが思い出の映画としてご紹介します。

まず、冒頭の導入曲に心を揺さぶられます。

まるで往年の無国籍映画のような思わせぶりなメロディは、知る人ぞ知る大島ミチルさん作曲。本気だな、これは。と感じさせます。続いて、映画全体をこってりと被う大阪弁に乗せて、お馴染みの吉本芸人は自分の持ちネタやギャグを連発させます。世界のナベアツは役名もそのまま、大阪国大統領となり、刑事役の宮川大輔やケンドーコバヤシが小ネタやトークで笑いを誘います。出てくる芸人さんはベテラン、新人問わず真剣勝負です。裸同然のコスプレだって平気だし、正直いって裸の場面もあります。でもそれがみんな一生懸命で、心地よい。「全力で笑わせたるでえ」といった気迫に満ちて美しさを感じたほどです。

また、脇を支える本物の役者さんたちも素晴らしいです。それぞれの個性を活かした役柄で、作品をキリッと引き締めてくれました。中村トオルさん、大杉漣さん始め、綺麗どころでは大石恵さん、釈由美子さん。今までのキャリアが全部無駄になるかもしれない危険を冒してまで出演した彼らに、心から敬意を表します。しかし、作品を観ればその理由も無理からぬことと理解できます。全体を通じて人間の優しさや友情を描いていて、ある場面では涙が滲んだりします。芸人さん達は自分がアホに徹することで、私たちに幸せな笑いを与えてくれました。映画館を出たときに、アホな映画だったけど、観てよかったと思えるのは、笑わせてもらった、というプロの技を堪能したからに違いありません。

小学生の時にアホな男子を馬鹿にしつつも目が離せなかった経験は、女子なら誰にもあるはず。一旦は美しいアイドルに心を奪われたけれど、私は笑顔のために身を粉にするお笑い芸人さんに憧れの対象を戻します。皆さんも、そろそろ正直に「お笑い大好き宣言」しませんか？

『さらば愛しの大統領』

監督：柴田大輔 出演：宮川大輔、ケンドーコバヤシ

あらすじ：大阪府知事選挙に立候補したお笑い芸人の世界のナベアツは見事当選を果たすが、すぐさま日本からの独立国家宣言をして、大阪合衆国の最初の大統領に就任してしまう。一方、大阪府警にはナベアツ大統領の暗殺予告が届き、府警で有名な迷コンビ、早川刑事(宮川大輔)と番場刑事(ケンドーコバヤシ)が、犯人グループの捜査に乗り出すのだが……。



お知らせ

■ 岩波ホール『クレアモントホテル』音声ガイド付き上映

日時：1月31日(月曜日) 上映開始：18時30分～(映画は108分です。)

集合：17時50分 岩波神保町ビル1階エレベーターホール(神保町駅A6出口直結)

料金：1400円。(晴眼者も一律)

ガイド方式：音声ガイドと字幕朗読は収録形式で行います。ラジオは、FM周波数88.5MHzに合わせてください。

【作品介绍】ロンドンの街角にある長期滞在型のホテル「クレアモント」では、人生の終着点に近づいた人たちが暮らしていた。それぞれに孤独ながらも遊び心を忘れない滞在客たちの一人、パルフリー夫人(ジョーン・プロウライト)は、ある日、小説家志望の青年ルード(ルパート・フレンド)に孫のふりをしてほしいと頼む……。

ロンドンのホテルを舞台に、老婦人と青年の心温まる交流を情感豊かに描いた珠玉のヒューマンドラマ。

【申込締切】1月26日 24時

※お申し込みは、同行鑑賞受付窓口 doukou@citylights01.org または、シティ・ライツ事務局(03-3917-1995)までお願いします。

■調布シネサロン 『犬神家の一族』音声ガイド付き上映

日時:2月15日(火曜日) 場所:調布市グリーンホール (京王線調布駅中央口よりすぐ。※南側階段をおりて右手の建物です。)

上映開始:14時～/19時～の2回。(音声ガイド付き) 各回30分前開場

鑑賞料:無料 主催:調布市文化・コミュニティ振興財団 協力:シティ・ライツ

※音声ガイドをお聞きになる方は、FM ラジオをご持参ください。

周波数 FM88.5MHz で音声ガイドをお聞きになれます。(当日受付にてラジオの貸出もあります。)

※いらっしゃる方は、シティ・ライツ事務局までご一報いただけると嬉しいです。調布駅からの誘導をご希望の方も、駅からご案内いたしますので、ご連絡ください。

■調布映画祭2011 音声ガイド付き上映作品決定!

今年も、3月に開催される調布映画祭で、シティ・ライツが音声ガイドに協力します。年に1度のお祭りですので、シティ・ライツのボランティアスタッフ一同も、総力をあげて取り組んでいます。是非、ご期待ください。日程と作品が決定いたしましたので、ご案内いたします。お申し込みについての詳細は、追ってメーリングリスト等でお知らせします。メールをお使いでない方は、2月10日過ぎにシティ・ライツ事務局まで、お電話でお問い合わせください。

★3月5日(土) 15:45～17:49 会場:調布市グリーンホール 大ホール(定員 800 名)

『オーケストラ!』 2009 年/フランス映画/124 分

監督 ラデュ・ミヘリアニウ/出演 アレクセイ・グシュコフ メラニー・ロラン フランソワ・ベルレアンほか

(あらすじ) ロシアのポリシヨイ交響楽団で劇場清掃員として働くアンドレイは、かつて天才指揮者と謳われた男。しかし、時の共産党政権が進めたユダヤ人演奏家排斥に抗議し解雇されてしまったのだ。そんなある日、清掃中にパリの劇場から届いた出演依頼の FAX を盗み見た彼は、とんでもないことを思いつく。それは、かつての仲間たちを集めて偽の楽団を結成し、ポリシヨイ代表としてコンサートに出場するというものだった。政治に翻弄され不遇をかこった元天才指揮者が、1 枚の FAX をきっかけに散り散りとなったかつての仲間たちを呼び戻し、偽の楽団でパリ公演を成功させようと奮闘する姿をユーモラスに綴る、感動の音楽人情コメディ。

★ 3月6日(日) 15:05～16:34 会場:調布市文化会館たづくり 2F くすのきホール

『マルタのやさしい刺繍』 2006 年/スイス映画/86 分

監督:ベティナ・オベルリ 出演:シュテファニー・グラウザー、ハイジ・マリア・グレスナーほか

(あらすじ) スイスの小さな村。夫に先立たれ、無気力な日々を送る 80 歳のマルタ。そんなある日、彼女はふとしたきっかけから、若い頃に抱いた夢のことを思い出す。それは、自分でデザインして刺繍したランジェリーの店を開くこと。そして、ふさがちな彼女を心配していた友人たちの後押しで、もう一度夢に向かって動き出すマルタ。しかし、昔ながらの保守的な考え方が支配的な村では、マルタのささやかな夢さえも破廉恥と非難されてしまい…。

★ 3月6日(日) 16:50～20:37 会場:調布市グリーンホール 大ホール(定員 800 名)

『沈まぬ太陽』 2009 年/日本映画/202 分

監督:若松節朗 出演:渡辺 謙、三浦 友和、松雪 泰子ほか

(あらすじ) 国民航空の労働組合委員長を務める恩地元。職場環境の改善を会社側へ訴えていた彼はやがて、あからさまな懲罰人事で海外赴任を命じられる。それでも恩地は自らの信念を曲げることなく、任地での職務を全うしていく。一方、組合員として共に闘った同期の行天四郎は会社側に寝返り、エリートコースを歩んでいくのだったが…。人気作家・山崎豊子の同名ベストセラー小説を、主演の渡辺謙はじめ豪華キャスト陣で映画化した社会派ヒューマン・ドラマ。腐敗した巨大組織の中で不条理にも翻弄されていく一人の男が、一企業人としての矜持と不屈の精神で立ち向かっていく姿を壮大なスケールで描き出す。



編集後記

編集スタッフ・イラスト描きやレイアウトデザインの
スタッフも大募集！希望の方は会報編集課まで！

（会報編集課 ノンちゃん）

この編集後記を書いている時点ではまだ予定が1本残っていますが、2010年に観た映画50本を振り返ってみます。50本と言っても約1時間の中に5本が上映されたショートムービーが入ってますので46本と言えなくもないのですが・・・。

内訳をみると邦画が34本とかなり多くを占めていること、同行鑑賞会に参加したのが6回と少なかったことは、セットのような気がしますね。つまり、一人でふらっと観たり、友達と観たりするときはどうしても邦画になるので、観たかった作品の同行鑑賞会に都合が合わずに残念だったことも幾度か。せめて字幕朗読だけでもいつでもついていてくれたらなあと思っております。

それでも、「ニッポン無責任時代」「幕末太陽伝」といったすばらしい旧作に会えたこと、「キャタピラー」の寺島しのぶさんの演技に圧倒されエンドロールのバックに流れる元ちとせの歌う歌詞を聞きながら涙が止まらなくなったこと、そんな経験ができたのは嬉しいことでした。私の地元で大活躍してくれている横浜らいぶシネマのお陰です。シティ・ライツも数年来、岩波ホールさんと手を取り合っていますが、横浜らいぶシネマもシネマ・ジャック&ベティの専属グループ。こうして地域密着の活動が他の地域にもどんどん広がって行ってくれたらいいですね。そして、その先の先の方には、地域みんなの憩いの場としてのシティ・ライツ劇場が生まれる。そんな日に思いをはせながら10周年の年を迎えたのでした。

（会報編集課 吉川）

みなさんこんにちは。これを書いている現在は12月半ば過ぎ、非常に寒さが厳しくなってきました。そろそろマフラーと手袋を引っ張り出してこようと考えております。

2010年は皆さんにとってどのような年でしたか？趣味でピアノをやっている自分としては、2010年はショパンイヤーでした。リサイタルの多くはオールショパンプログラム。ピアノの詩人といわれたショパンの残した名曲を色々な所で味わいました。

最後に、年末ということで今年見た映画ベスト??をあげておきます。夏号にも書いた「瞳の中の秘密」がダントツでした。後は、「オーケストラ」、「悪人」、「インビクタス」、「カールじいさんの空飛ぶ家」あたりが面白かったかな。

来年もまた、素敵な作品に出会えることを祈りつつ、冬号を閉じたいと思います。ではまた、2011年にお会いしましょう。

お忙しい中、今回の会報作成に協力いただいた方々には、大変感謝しております。ありがとうございました。

皆さまの投稿を、心よりお待ちしております。宛先は、kaihou@citylights01.org。次回の発行は4月10日。投稿される方は、3月第2土曜日までをお願いします。『会報のデータ送信』を希望の方には、会報のテキストメール送信にも対応します。ご希望の方がいらっしゃれば、会報編集担当アドレス<kaihou@citylights01.org>まで、氏名と会報の送信を希望するメールアドレスを記入して、お申し込みください。

2011年冬1月10日発行 編集：吉川俊平、齊藤恵子
発行者：バリアフリー映画鑑賞推進団体 シティ・ライツ
事務局：〒114-0016 東京都北区上中里 1-35-15 TEL&FAX 03-3917-1995
E-mail mail@citylights01.org URL http://www.citylights01.org

